

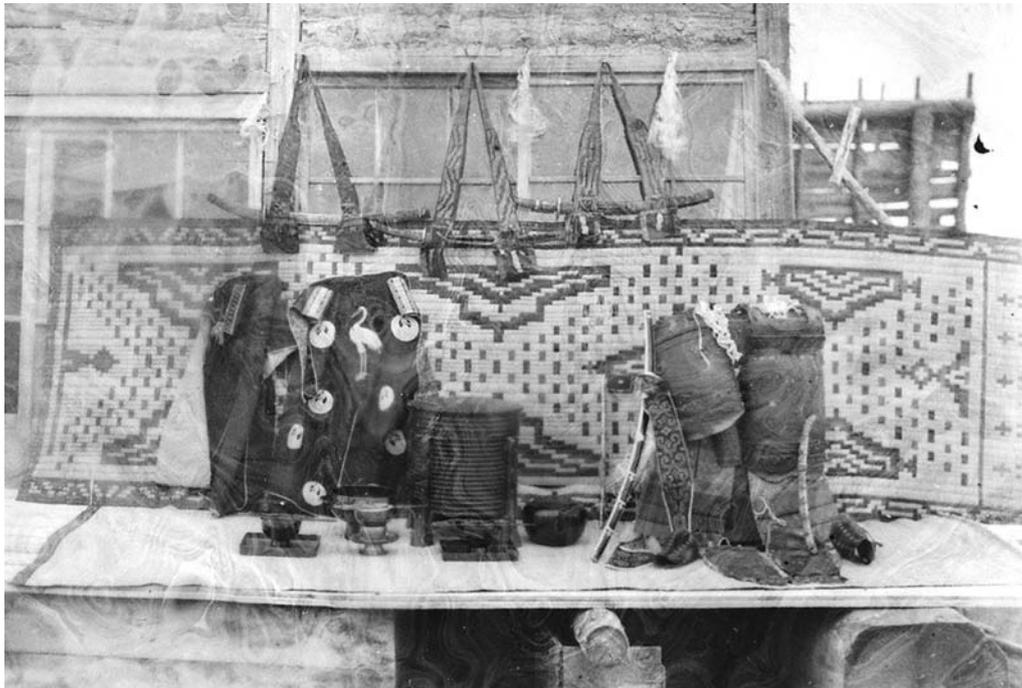
アイヌ民族文化研究センターだより NO.31

2009年9月

●もくじ	
<ul style="list-style-type: none"> ・久保寺逸彦文庫の資料から1 「家の外壁の前に並べた器物」 ・公開している資料から2 「アイヌ語資料館設置の件 要望書」と「アイヌ文化 伝承保存会」設立関係資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドからデスクから 4 「札幌北3条西7丁目物語 (上)」 ・「センターだより」21号～30号の総目次 5 ・寄贈を受けた資料 6 ・お知らせ 8

久保寺逸彦文庫の資料から

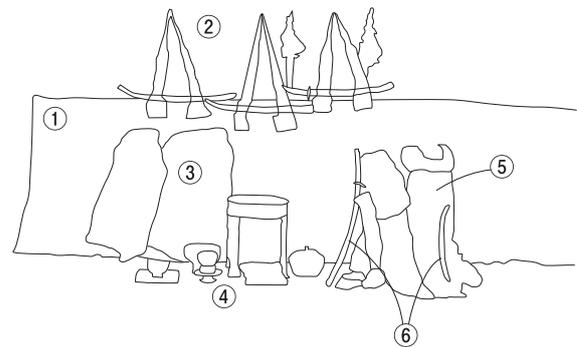
「家の外壁の前に並べた器物」 (資料番号：KP1105-013)



久保寺逸彦氏は、1935年に北海道と樺太（現サハリン）^{からふと}での一か月にわたる調査行に赴き、筆録のほか、写真撮影（原盤はガラス乾板）、録音（レコード盤）や録画（16ミリフィルム）を行った。研究調査に際して録音や録画を行うことは、現在ではごく当たり前になっているが、当時としては非常に珍しいことだった。日本人のアイヌ文化研究者が行った録音・録画資料としては、最も古い時期のものになる。

上の写真は、久保寺氏が樺太の泊岸村の新聞で家の壁の前に台を作り撮影したものである。この写真1枚から、新聞の人々が大切にしていた品々とはどのようなものか、うかがうことができる。

外壁に沿って簡単な台が作られ、台の奥に大きな莫塵（①）を横に広げている。建物の窓枠からは、刀掛帯に入った3本の刀（②）とイナウが下がっている。台の左奥には鶴の文様が付いた陣羽織と思われる着物（③）が、中央には椀、膳、行器、天目台などの漆器（④）が、右手前には鎧の胴部（⑤）と思われるものと、それに立てかけた2本の刀（⑥）が見られる。



アイヌの伝統的な莫塵の文様は、端を除いてシンメトリに作るのが一般的だが、①は文様の大きさや形が異なる。縁取り（写真では上下の端）にも文様を施しているのも特徴である。

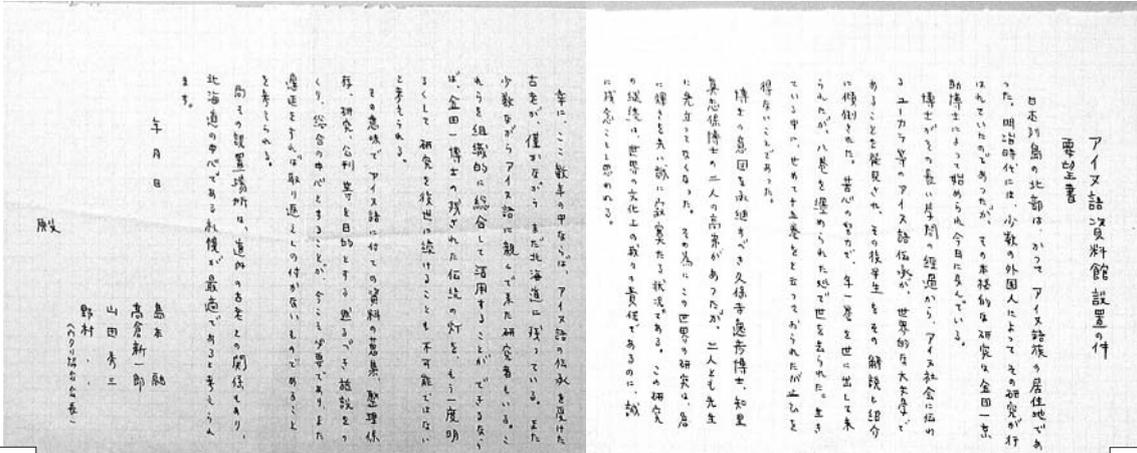
④の漆器、⑤の鎧は、交易による移入品。アイヌの民具の中に鎧があったことは、古い記録には残っているが、現存するものはないと思われる。

⑥の、向かって左の刀の刀掛帯は、布に刺繍を施した、樺太に特徴的なものである。

公開している資料から

「アイヌ語資料館設置の件 要望書」と「アイヌ文化伝承保存会」設立関係資料
—1970年前後のアイヌ語資料の収集・整理・保存そして活用に向けた動き—

当研究センターでは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」、職員による採録資料などを、平成15年度から順次公開しています。このコーナーでは、これまでに公開した資料の中からいくつかを取り上げ、その特徴や意義、あるいは関連する情報などをお知らせしています。



写真①

「アイヌ語資料館設置の件 要望書」山田秀三文庫文書資料 (資料番号: YD0225)

写真②

前回 (『研究センターだより』No.29)、アイヌ語地名研究の第一人者であった山田秀三^{ひでぞう}氏が、早くからアイヌ語・アイヌ文化に関心を持ち、その記録や保存・伝承にも取り組んでいたことを紹介しました。

山田氏の足跡については、2004 (平成16) 年度から2008 (平成20) 年度にかけて開催してきた企画展「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—」でも取り上げてきましたが、今回は、この企画展においてパネルで展示してきた資料を二つ紹介します。

* * * * *

写真1・2は、「アイヌ語資料館設置の件／要望書」と題された、B5判方眼紙2枚に黒色のペンで書かれた文書です。山田氏の字で書かれており、「アイヌ語族」など山田氏の著作に見られる言葉が使われていることから、山田氏自身が書いた文書だと思われます。表題からうかがえるとおり、「アイヌ語資料館」を札幌に設置することを求めたもので、道などの行政に対する要請、または関係各方面の支援や協力を求めるために作成されたものと考えられます。

文書の本文は、「日本列島の北部は、かつてアイヌ語族の居住地であった。」という言葉で始まり、日本における本格的なアイヌ語研究の基礎を築いてきた金田一京助氏 (1882~1971)、久保寺逸彦氏 (1902~1971)、知里真志保氏 (1909~1961) が相次いで亡

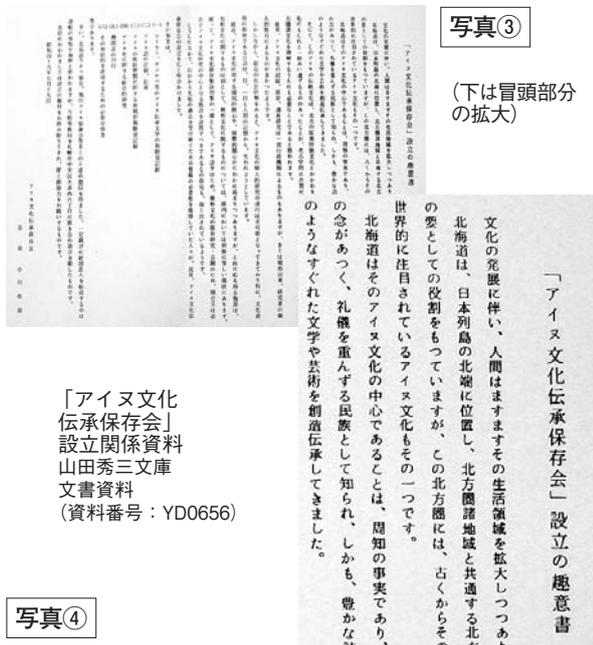
くなった状況を述べ、アイヌ語研究の継承の必要を訴えます。そして、「幸に、ここ数年の中ならば」アイヌ語をよく知る古老もおり、また「少数ながらアイヌ語に親しんできた研究者もいる」と、若手の研究者が現れつつあるとも記した上で、「これら組織的に総合して活用することができるならば」と、アイヌ語の調査・研究に向けた「組織的」な取り組みの必要を述べ、「アイヌ語に付ての資料の^(ママ)蒐集、整理保存、研究、公刊等を目的とする然るべき施設をつくり、総合の中心とする」ことを求めています。

末尾に記された、おそらくは発起人となることを想定したであろう人名には、山田氏のほか、島本^{とある}融氏 (1904~1976: 北海道銀行初代頭取)、高倉新一郎氏 (1902~1990: 北海道大学教授などを歴任) の名が並んでいます。その隣に「野村 (ウタリ協会会長)」とあるのは、社団法人北海道ウタリ協会 (現北海道アイヌ協会) の理事長だった野村^{まいち}義一氏 (1914~2008) のことと思われます。野村氏だけ姓のみの記載になっているのは、この要望を行うに当たって、先ず当時の北海道の財界と学界の重鎮だった島本・高倉両氏に内諾をとる、という手順を踏んだためではないかと推測されます。年月日が空欄になっていますが、この文書が作成されたのは、金田一氏の没後、島本氏の生前とすれば1970年代の前半、文書の内容には次に紹

介する「アイヌ文化伝承保存会」の事業と共通するものがあることから、同会設立に先立つものだと考えられるので、おおよそ1972～3（昭和47～8）年ごろになるでしょうか。

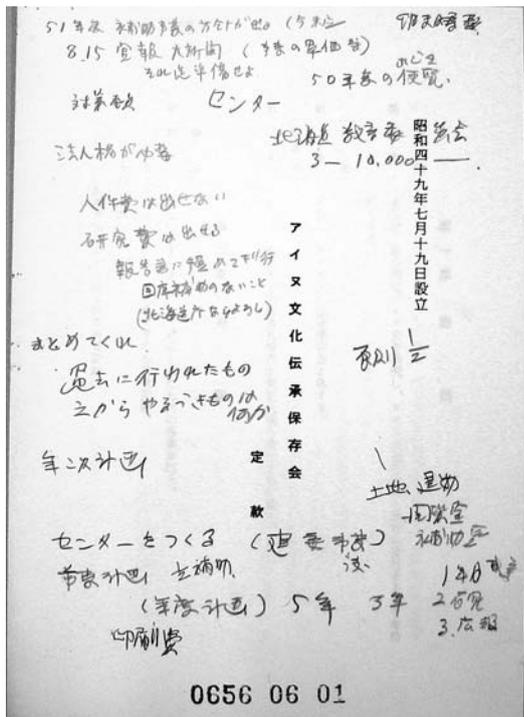
今のところこの要望書が提出されたとの記録は確認できないので、おそらく構想の段階にとどまったものと思われますが、アイヌ語に関する資料の収集・整理・保存を、その先の「公刊」という、学習・研究そして伝承活動への活用の可能性を含んだ事業を展望している点で、重要な意味を持つ資料ではないかと思えます。

* * * * *



「アイヌ文化伝承保存会」設立関係資料
山田秀三文庫
文書資料
(資料番号: YD0656)

写真④



山田氏は、1976（昭和51）年度に発足した財団法人アイヌ無形文化伝承保存会の創設当初から、中心的な立場で関わってきました。山田秀三文庫にも、同会に関わる資料が何点も残されています。

写真3・4は、同会の前身に当たるアイヌ文化伝承保存会（1974年設立）の設立当時の資料の一部です。写真3は「アイヌ文化伝承保存会」設立の趣意書（B4判、1枚、1974年7月19日付け）、写真4は同会の定款（B6判、12ページ）です。この他に、『アイヌ文化伝承保存会の歩み』と題された文書（B5判、8枚）や同会の事業計画書などが一緒に残されていました。「趣意書」と「定款」は、それぞれ同じものが20部ほど一括されており、山田氏がこれらをあちこちに配布していたことがうかがわれます。

写真4は、何枚も残されていた定款のうち、山田氏による書き込みが見られるものです。おそらく設立時の打ち合わせの内容をメモしたものと思われる。それを見ていくと、「50年度の便覧」「（年度計画）5年、3年」といった言葉があり、発足させたこの会の周知を図り事業計画をたてていこうとする様子がうかがえます。

「まとめてくれ／過去におこなわれたもの／之からやるべきことは何か」という書き込みもあり、これまでのアイヌ文化に関する、おそらくは行政や関係団体などの取り組みを総括した上で「之から」必要な事業を見定めようとする姿勢を示すものだと思います。また、「報告書に纏めて刊行」「センターをつくる」といった書き込みがあり、先に紹介した「要望書」に見られるような、アイヌ文化に関する、それまでの資料を収集し、整理し、保存し、研究し、それらの成果を公刊し、伝承に役立てていく——これを「総合」して行う「センター」を目指したようすがうかがえます。

この当時から、アイヌ文化の伝承のために、こうした取り組みの重要性が、山田氏ら関係者の間で認識され、実際に様々な取り組みが続けられてきた歴史は、今日、そしてこれからの時代において、なおいっそう意義を持つだろうと思います。

※これらの資料は、当研究センターの資料閲覧コーナーで、複製（カラー画像データからの紙焼き）で閲覧することができます。
※資料に関する情報は、『山田秀三文庫 文書資料目録Ⅲ・写真資料目録』62、75ページにも掲載しています。

フィールドからデスクから 札幌 北3条西7丁目物語 (上)

当研究センターは、2009（平成21）年3月に、それまでの札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7ビルから、北3条西7丁目の緑苑ビルに移転しました。

新しい住所である、北3条西7丁目は、アイヌに対するキリスト教の伝道などで知られる、イギリス人ジョン・バチェラー（1854～1944）の札幌での住まいのあった場所で、札幌の中でもアイヌの歴史にゆかりの深いところの一つだと思います。移転を機会に、このことを中心とした北3条西7丁目の歴史の一端をたどってみました。

* * * * *



左から、バチェラー、官部金吾（札幌農学校）、佐藤昌介（同）、伊藤一隆（北水協会初代会頭）、1892年ごろ。（仁多見蔵『異境の使途 英人ジョン・バチェラー伝』北海道新聞社、1991年）

1877（明治10）年にキリスト教伝道者として北海道に来たバチェラーは、ほどなくしてアイヌに対する伝道に熱心に取り組むようになります。札幌への転居は、1892（明治25）年1月のことで、このとき最初に

購入した家が、北3条西7丁目1番地、現在の緑苑ビルと同じ番地にあった家屋だったといえます。ただ、いささか古い建物だったため、冬の寒さがこたえたようで、バチェラー自身、後年に次のように回想しています。

（前略）番地は札幌北三条西七丁目一番地で、番地こそ一番でなかなかよいのですが〔中略〕随分古い二階建てで二〇〇円で買ったのですが、修繕するのにまた二〇〇円かかりました。（中略）少し強い風が吹くと、どこからか風が吹きこみ〔中略〕夜は寒くてとても二階で寝ていられません。（中略）この家のありがたいと思ったことはたった一つありました。それはこの家の地所が北水協会の物でしたから安く貸して頂けた事です。

（『ジョン・バチェラー自叙伝 我が記憶をたどって』村崎恭子校訂、北海道出版企画センター、2008年（原著は1928年））

文中に出てくる北水協会とは、1884（明治17）年に水産業の改良・発達を目的に設立された組織で、現在もこの北3条西7丁目に北海道水産ビルと第二水産ビルがあり、同協会のほか多くの水産業団体が事務所を構えています。

札幌を拠点として活動を開始したバチェラーは、何度かアイヌに関する演説会も開催していますが、例えば、1892年2月4日に開催された演説会の模様を報じた『北海道毎日新聞』（現在の北海道新聞）の記事は、「第一回演説会は一昨四日北水協会楼に開かれたり」と報じており、会場がバチェラーの自宅のすぐ隣だったことがわかります。

* * * * *



上の写真は、1899（明治32）年発行の「札幌市街全図」の、北3条西7丁目付近の部分です。右側に道庁があり、左側に「博物場」と書かれている場所は現在も北海道大学の植物園です。中央部、かなり小さい文字ですが、「北水協会」とある辺りに、バチェラーの最初の家があったことになります。

自宅のすぐ隣に小さな池のような川が描かれています。当時はサケがのぼってきて、雇っていたアイヌがヤスで捕らえてきてきくれた——とバチェラー自身も回想しています。札幌の街が形成された場所は、豊平川の扇状地にあたり、植物園の構内にも泉がありました。

アイヌ語地名研究者の山田秀三は、『札幌のアイヌ地名を尋ねて』（1963年）の中で、

湧泉のあるような池の事を、アイヌ語ではメムと云う。札幌の北は地下水位が高かったので、至る処の凹地にメムがあった。それ等の池は、後に殆どなくなったが、今でも大きな施設や邸宅の中に跡が見られる。

と述べています。地図を見ると、この川が北3条西7丁目のところで、博物館の敷地を越え道路まではみ出しているようすがわかります。現在も、ちょうどこのT字路の辺りは少しか道路が低くなっていて、長い年月を経てもなお、この土地の歴史を伝えてくれるかのようです。

* * * * *

バチェラーは、1898（明治31）年の春、同じ北3条西7丁目の2番地に、新居を建てて引っ越します。現在の道庁別館のある区画の、南東角に当たる場所でした。次号では、この二番地に開設されたバチェラー学園や、学園をめぐる人々を中心に、1900年以降の歴史を紹介します。

（研究職員・小川正人）

※バチェラーの名は、文献によって「バチラー」とも「バチェラー」とも書かれますが、ここでは「バチェラー」に統一しました。
※引用した文献以外の、今回の記事を書くに当たった参考文献や資料は、次回にまとめて掲載します。ご了解ください。

「アイヌ民族文化研究センターだより」21～30号の総目次

「センターだより」各号の総目次は、1～10号分を11号（1999年9月発行）に、11～20号分を21号（2004年9月発行）に、それぞれ掲載してきました。今回は、21～30号分をまとめてあります。

署名記事の執筆者は、() 内に職・指名を記しました。なお、「寄贈を受けた資料」と最終ページ（行事や刊行物などのお知らせ）の記載は省略しました。

No.21 (2004年9月30日発行)

【(表紙) 企画展「アイヌ語地名を歩く」ポスターより
 【企画展】アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
 【公開資料の紹介】山田秀三文庫の音声資料
 【研究課題紹介】アイヌ史関係新聞資料の調査研究：胆振・日高地方（研究職員・小川正人）
 【総目次】「アイヌ民族文化研究センターだより」11～20号の総目次

No.22 (2005年3月25日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫中の旭川地方関係の地図資料より
 【企画展】アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—
 【公開資料の紹介】平成17年度から公開する資料について
 【こんなときは】アイヌ関係の昔の法令を調べたい（研究職員・小川正人）
 【研究課題紹介】旭川に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌についての調査研究（研究職員・甲地利恵）

No.23 (2005年9月30日発行)

【(表紙) 企画展「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2005・旭川」より
 【企画展】「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2005・旭川」
 【調査研究成果の紹介】「アイヌ文献目録2003」について（研究職員・小川正人）
 【公開資料の紹介】公開している資料について(1)音声・映像資料

No.24 (2006年3月24日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫中の釧路・十勝地方関係の地図資料より
 【企画展】「アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—2006・釧路／十勝」
 【共同研究から】「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」について（研究課長・古原敏弘）
 【公開資料の紹介】公開している資料について(2)文書・写真資料
 【公開資料の紹介】平成18年度から公開する資料について

No.25 (2005年9月29日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫の資料から】「弟子屈市街を流れる釧路川」
 【研究課題紹介】「十勝地方のアイヌ語の調査研究(基礎語彙)」について（研究職員・澤井春美）
 【「ボン カンピソシ」の写真から(1) サハリンの木綿衣
 【公開資料の紹介】平成18年度に新たに公開した資料

No.26 (2007年3月26日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫の資料から】浦河町の「チノミシリ」
 【「ボン カンピソシ」の写真から(2) 復活した登別の儀式
 【フィールドからデスクから】「ピリカ ピリカ」はアイヌの歌？（研究職員・甲地利恵）
 【公開資料の紹介】平成19年度から公開する資料について

No.27 (2007年9月28日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫の資料から】伊達市の「ワッカオイ」
 【「ボン カンピソシ」の写真から(3) 噴火湾の木綿衣
 【フィールドからデスクから】「サヨンの歌」とアイヌ語と（研究職員・甲地利恵）
 【公開している資料から(1)】山田秀三文庫音声資料「沙流川下流域の地名調査」

No.28 (2008年3月25日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫の資料から】青森県東通村の「尻労」と長万部町の「静狩」
 【「ボン カンピソシ」の写真から(4) 負ぶい紐
 【研究課題紹介】吉田巖関係資料の調査研究（研究職員・小川正人）
 【公開資料の紹介】平成20年度から公開する資料について

No.29 (2009年9月30日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫の資料から】青森県津軽半島外ヶ浜町の「宇田」と北海道檜山地方の「歌」
 【フィールドからデスクから】自著紹介「アイヌ語文法の基礎」（北海道大学准教授・佐藤知己）
 【「ボン カンピソシ」の写真から(5) アイヌの食器 椀
 【公開している資料から(2)】山田秀三文庫「SPOKEN AINU」と「アイヌ語日常会話テキスト」

No.30 (2009年3月25日発行)

【(表紙) 山田秀三文庫と久保寺逸彦文庫の資料から】「アイヌ語会話辞典」写本
 【企画展】「語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界」
 【研究課題紹介】鶴川地方に伝承されるアイヌの音楽についての調査研究（研究職員・甲地利恵）
 【公開資料の紹介】平成21年度から公開する資料について

寄贈を受けた資料

(2009年3月～8月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

愛知県立大学多文化共生研究所

- ・共生の文化研究 2

アイヌ語地名研究会

- ・アイヌ語地名研究会会報 第35、36号

財アイヌ文化振興・研究推進機構

- ・平成21年度アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol.2

- ・アイヌの美 カムイと創造する世界

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

- ・青森県史だより 第17号

- ・青森県史 資料編 近現代5 復興と改革の時代

青森県立郷土館

- ・青森県立郷土館研究紀要 第33号

- ・青森県立郷土館だより Vol.39 No.1～3 通巻143～145号

- ・青森県立郷土館報 平成21(2009)年度版 通巻36号

秋田県公文書館

- ・秋田県庁文書群目録 第6集

- ・秋田県公文書館だより 第23号

- ・秋田県公文書館研究紀要 第15号

旭川市、旭川市博物館

- ・新旭川市史 第4巻通史4

- ・旭川市博物館科学館報 Vol.1

- ・旭川市科学博物館研究報告 第1号

アジア・太平洋人権情報センター

- ・国際人権ひろば No.84

厚真町教育委員会

- ・上幌内モイ遺跡(3)

石狩市企画経済部秘書広報課、石狩市教育委員会、いしかり砂丘の風資料館

- ・エスチュアリ いしかり砂丘の風資料館だより No.35

- ・石狩紅葉山52号遺跡＝札幌市K483遺跡発掘調査報告書

- ・広報いしかり No.680

伊藤務

- ・民具図録 続々 アイヌの工芸世界 マキリ(小刀)

- ・北海道の義務教育初等教育学校におけるアイヌ民族伝統文化理解教育の現状(2)

伊能忠敬記念館

- ・伊能忠敬記念館特別展 伊能図の評価

- ・評価される忠敬

- ・伊能忠敬記念館年報 第10号

岩淵壽里

- ・アットゥシ織り(縦糸の本数)の実践研究

浦幌町立博物館

- ・浦幌町立博物館紀要 第9号

- ・浦幌町立博物館年報 第9号

蝦夷地アイヌ地名集積共同制作グループ

- ・蝦夷地アイヌ地名集積

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 日高地方 沙流川～新冠川～襟裳岬

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 網走東部

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 網走西部

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 網走Ⅰ紋別 幌内川～湧別川水系

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 網走Ⅱ北見 サロマ湖～常呂川水系

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 網走Ⅲ網走・斜里 網走川・能取湖～知床岬

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 樺太

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 樺太西海岸

- ・蝦夷地アイヌ地名集積 [PDF版]

恵庭市教育委員会

- ・恵庭市詳細分布調査報告書 柏木川9・8・7・13遺跡

- ・恵庭市郷土資料館年報 第15号

大阪市教育委員会

- ・OSAKA生涯学習情報誌 いちよう並木 No.326

大谷亜紀

- ・アイヌ民族の食用植物と薬用植物について

小樽市総合博物館

- ・第61回特別展 蜃気楼の神秘を探る

- ・小樽市総合博物館紀要 第22号

小樽商科大学言語センター

- ・言語センター広報 Language Studies 第17号

小野雄貴ほか(編)

- ・アイヌ語新ひだか方言辞典草案

- ・帯広叢書 第61巻 吉田巖資料集27

帯広百年記念館

- ・帯広百年記念館紀要 第27号

学習院大学史料館

- ・学習院キャンパス資料集 ピラミッド校舎の記憶

- ・ミュージアム・レター 特別号、No.10

- ・学習院大学史料館紀要 第15号

風間伸次郎

- ・ツングース言語文化論集44 ウデヘ語テキスト5

- ・ツングース言語文化論集45-A エウエン語テキスト 2

- ・ツングース言語文化論集45-B エウエン語テキスト 2 (B)

神奈川大学日本常民文化研究所

- ・歴史と民俗 第25号 神奈川大学日本常民文化研究所論集25

- ・民具マンスリー 第41巻第11、12号、第42巻第1～3号

- ・神奈川大学日本常民文化研究所〔要覧〕2008年度

- ・神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書 日本近世生活絵引 北海道編

- ・神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書 身体技法・感性・民具の資料化と体系化

- ・国立民族学博物館研究報告 33巻4号

- ・Senri Ethnological Studies 72 Human-Nature Relations and the Historical Backgrounds of Hunter-Gatherer Cultures in Northeast Asian Forests

- ・MINPAKU Anthropology Newsletter No.28

コスモメディア

- ・北海道生活 Vol.12、13

小長谷有紀

- ・昔ばなしで親しむ環境倫理：エコロジーの心を育む読み聞かせ

小林法道

- ・復原建築写真集 今も生きるアイヌ建築—アイヌ建築の姿—

札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部

- ・〔札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部〕紀要 第39号

札幌学院大学学芸員課程

- ・札幌学院大学学芸員課程年報 22

札幌国際大学

- ・札幌国際大学紀要 第40号

札幌市教育委員会

- ・アイヌの歴史・文化等に関する資料3 学校教育とアイヌ理解

札幌市文化資料室

- ・札幌市文化資料室研究紀要 公文書館への道 創刊号

- ・文化資料室ニュース 第7、8号

沙流川歴史館

- ・沙流川歴史館年報 第10号

- ・沙流川歴史館だより No.34

滋賀大学経済学部附属史料館

- ・史料館概要

- ・馬場武司家文書目録

- ・滋賀大学経済学部附属史料館 研究紀要 第42号

標津町教育委員会

- ・伊茶仁カリカリウス遺跡

斜里町立知床博物館

- ・しれとこライブラリー-8 知床の地質

- ・しれとこライブラリー-9 知床の考古

- ・知床博物館第30回特別展 知床の動物たちにひそむ 危険と対処 自然を楽しむために

- ・知床博物館研究報告 第30集

- ・〔斜里町立知床博物館〕博物館のひろば No.100、101

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第6号

白老 楽しくやさしいアイヌ語教室

- ・金成マツ筆録ユーカラ既刊20編の研究と分析

市立函館博物館

- ・市立函館博物館報サラニップ No.48

末岡外美夫

- ・人間達 [アイヌタリ] のみた星座と伝承 末広小のアイヌ文化学習を支援する会

- ・さあアイヌ文化を学ぼう! 千歳市立末広小学校のアイヌ文化学習

世界人権宣言大阪連絡会議

- ・世界人権宣言大阪連絡会議ニュース No.317～324

世界人権問題研究センター

- ・1995年度 共同研究報告書

- ・共同研究報告書 「女性の人権」の研究 記録1～(3)

- ・「人権の世紀」～京都から世界の人々に向けて～

- ・水平社ゆかりの地をたずねて

- ・設立記念講演会 講演録

- ・人権ゆかりの地をたずねて

- ・人権ゆかりの地をたずねてⅡ

- ・人権ゆかりの地をたずねてⅢ

- ・人権ゆかりの地をたずねて 丹波・丹後編

- ・人権ゆかりの地をたずねて 京都市内編

- ・人権ゆかりの地をたずねて 乙訓・南山城編

- ・2000年度人権講座講演録—人権ゆかりの

地をたずねてー
 ・2003年度講演録 講座・人権ゆかりの地をたずねてーボランティア人権ガイド養成講座ー
 ・2004年度講演録 講座・人権ゆかりの地をたずねて
 ・2005年度講演録 講座・人権ゆかりの地をたずねて
 ・2006年度講演録 講座・人権ゆかりの地をたずねて
 ・啓発リーダーのために 人権問題指導者養成研修会に学ぶ(平成11年)～(平成13年)
 ・人権口コミ講座9、10
 ・GLOBE 2006年 春～2009年 夏(No.58)
 ・世界人権問題研究センター研究紀要 第1号～第4号、第6号～第14号
 ・世界人権問題研究センター年報 1994年度～2008年度
 ・世界人権宣言60周年記念講演会 講演録
全国歴史資料保存利用期間連絡協議会 専門職問題委員会
 ・アーキビスト制度関係資料集
先住民族の10年市民連絡会
 ・アイヌ民族の国連活動の成果と展望:20年間の活動をふりかえる
 ・先住民族の10年News 第152号～156号
創価大学社会学会、創価大学人間学会
 ・創価人間学論集 第2号
 ・ソシオロジカ Vol.33 No.1・2
竹内渉
 ・小川佐助研究報告書
田中聖子
 ・『蝦夷言葉』の「義経淨瑠璃」について:近世のアイヌ口承文芸の記録に関する一考察
千歳市総務部
 ・『新千歳市史』編さんだより 志古津 9号
千葉県立国府台高等学校
 ・2008年度校外学習報告集
千葉大学ユーラシア言語文化論講座
 ・千葉大学ユーラシア言語文化論集 第11号
千葉伸彦
 ・阿寒のうた(ウボボ) 20年度調査記録集 楽譜編
知里真志保を語る会
 ・研究報告書 北海道大学での知里真志保津別町教育委員会
 ・津別町文化財調査報告 第1集 ツベットウンチャシ跡
東京都歴史文化財団、東京都江戸東京博物館
 ・江戸東京博物館NEWS Vol.65、66
 ・東京都江戸東京博物館研究報告 第15号
東北芸術工科大学東北文化研究センター
 ・東北文化友の会会報 まんだら 第39、40号
 ・季刊東北学 第19、20号
東北大学東北アジア研究センター
 ・東北大学東北アジア研究センターニューズレター CNEAS
童門冬二
 ・高田屋嘉兵衛 物語と史跡をたずねて
徳島県立文書館
 ・文書館だより 第30号
 ・第37回企画展 撮影された徳島の風俗 津田幸好の見た戦後の徳島
苫小牧駒澤大学
 ・苫小牧駒澤大学紀要 第19号
苫小牧市博物館
 ・苫小牧市博物館 館報 第6号(平成19年度)
 ・苫小牧市博物館だより No.58
長野県立歴史館
 ・長野県立歴史館 研究紀要 第15号
 ・長野県立歴史館だより Vol.58、59
奈良県立民俗博物館
 ・奈良県立民俗博物館だより Vol.35 No.1

南山大学人類学博物館
 ・南山大学人類学博物館紀要 第27号
南丹市立文化博物館
 ・平成20年度夏季企画展 妖怪大集合!!
 ・平成20年度秋季特別展 園部藩のあゆみ
 ・南丹市立文化博物館だより No.3、4
新潟県立文書館
 ・新潟県立文書館年報 第17号
日本語学会
 ・日本のなかの危機言語:アイヌ語、琉球語、本土方言 予稿集
沼津市明治史料館
 ・沼津市明治史料館通信 Vol.25 No.1 通巻第97号
ノーザンクロス
 ・カイ Vol.3、4
登別郷土文化研究会
 ・知里真志保博士講演 アイヌの歴史について
長谷川由希
 ・先住民族の文化遺産保護の権利 国連での議論とオーストラリア先住民族の事例
反差別国際運動日本委員会
 ・IMADR-JC通信 No.157、158
ビッグイシュー日本
 ・ビッグイシュー日本版 第121号
平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 ・2007年度 平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報
平山裕人
 ・ようこそアイヌ史の世界へ ～アイヌ史の夢を追う～
仏教大学文学部
 ・文学部論集 第93号
船橋市郷土資料館
 ・船橋市郷土資料館 資料館だより 第92号、93号
部落解放・人権研究所
 ・研究所通信 No.366・367合併号、368・369合併号、369号
 ・部落史研究からの発信 第2巻 近代編
古田良三
 ・緋衣とともに:古田鎌二(冬草)遺稿集
文化学園図書館
 ・図書館だより No.148
別海町郷土資料館
 ・別海町郷土資料館だより No.113～116
北翔大学短期大学部
 ・北翔大学短期大学部研究紀要 第47号
北海学園大学
 ・北海学園大学 学園論集 第139、140号
北海道アイヌ協会/北海道ウタリ協会
 ・郷土登別が生んだ アイヌ語学者 知里真志保
 ・絵本『しらぬかフンペ(くじら)伝説』
 ・社団法人北海道ウタリ協会 穂別支部解散特別記念誌
北海道開拓記念館
 ・林家資料目録 北海道開拓記念館一括資料目録 第38集
 ・北海道開拓記念館研究紀要 第37号
 ・北海道開拓記念館調査報告 第48号
 ・北海道開拓記念館要覧 平成20年度
 ・北海道開拓記念館だより Vol.39 No.1、2
北海道環境財団
 ・北海道環境財団月刊ニューズレター TGAL No.136～141
 ・2008年度活動報告書
北海道教育庁学校教育局義務教育課
 ・アイヌの人たちの歴史・文化等に関する啓発資料 ピラサ 第14号、15号、最終号
北海道教育委員会
 ・アイヌ民俗文化財ユーカシシリーズ 31
 アイヌ英雄叙事詩 アトゥイヤの女
 ・アイヌ民俗文化財ユーカシシリーズ 32
 金の草靴の六人の兄
 ・アイヌ民俗文化財ユーカシシリーズ 33
 夜も昼も気が狂って我が兄泣く

・平成20年度アイヌ民俗文化財調査報告書
 アイヌ民俗技術調査1(狩猟技術)
北海道大学
 ・リテラ・ポプリ 37号
北海道大学総合博物館
 ・北海道大学総合博物館ニュース 19号
北海道大学大学院教育学部・教育学研究院
 ・教育史・比較教育論考 第19号
 ・教育福祉研究 第15号
北海道大学大学院文学研究科
 ・サハリンの言語世界 北大文学研究科公開シンポジウム報告書
北海道大学大学文書館
 ・北海道大学大学文書館年報 第4号
北海道農政部ほか
 ・平成21年農業新技術発表会要旨
北海道文化財保護協会
 ・文化情報 第312号～314号
 ・北海道の文化 No.81
北海道北方博物館交流協会
 ・北方博物館交流 創刊号～第20号
北海道埋蔵文化財センター
 ・恵庭市 西島松5遺跡(6) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第260集
 ・白老町 虎杖浜2遺跡(5) ポニアヨロ4遺跡(2)
北海道立近代美術館ほか
 ・[北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館、北海道立函館美術館、北海道立釧路芸術館、北海道立三岸好太郎美術館] 紀要 2009
北海道立北方民族博物館
 ・第23回北方民族文化シンポジウム報告書 北太平洋の文化ー北方地域の博物館と民族文化③ー
 ・北海道立北方民族博物館研究紀要 第18号
 ・北方民族博物館だより No.72、73
北海道立文書館
 ・北海道立文書館研究紀要 第22号
ホリ・プロダクツ
 ・FOR YOU 第26号
ザンツ・マウゴジャータ
 ・千島アイヌの軌跡
前田一步園財団
 ・前田一步園財団20年の歩み
盛岡市先人記念館
 ・盛岡市先人記念館だより No.42
森町教育委員会
 ・森町埋蔵文化財調査報告書 第17集 町内遺跡発掘調査事業報告書
ヤイユーカーラの森
 ・Yay Yukur Park 62、63
吉川弘文館
 ・本郷 No.82
歴史教育者協議会
 ・歴史地理教育 通巻742号(3月増刊号)
Arctic Studies Center, Smithsonian Institution, National Museum of Natural History
 ・Arctic Studies Center Newsletter No.16



センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

9月までに、次の行事の開催・参加を行いました。多くの皆様にご来場をいただき、ありがとうございました。

詳細は、センターのウェブサイトでも紹介しています。

■平成21年度企画展「語り、継ぐ。」が終了しました

5月30日～7月20日、北海道立文学館との共催で「語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界」を開催しました。

会期中は約2,205名のご来場をいただき、無事終了しました。関連事業として開催した講座・講演会等5回のうち、当研究センターが担当した3回に、合わせて約180名の参加をいただきました。また、会場でのアンケートにも多数ご協力をいただきました。



展示会場のようす



5月30日の講演会より
本田優子氏と中川裕氏による対談

■「2009サイエンスパーク」に参加しました

7月29日、北海道と独立行政法人科学技術振興機構（JST）の共催による「2009サイエンスパーク」が、サッポロファクトリー（札幌市中央区）で開催され、当研究センターも例年どおり参加しました。展示ブースでは今年も、小学校中学年を主な対象としてアイヌの楽器「ムックリ」の鳴らし方の体験指導を行い、好評を博しました。



当研究センターの展示ブース前にて
ムックリの鳴らし方を子どもたちに指導

■「アイヌ語地名を歩く—山田秀三文庫の資料から—2009・札幌」を開催しました

9月7～11日、北海道庁1Fロビー（道民ホール）にて、パネル展示を中心とした「アイヌ語地名を歩く」を開催しました。

アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏の遺した資料を紹介するとともに、札幌を中心とする地域のアイヌ語地名について紹介しました。



展示会場のようす

センターの刊行物

■平成21年4月から9月までに、この『センターだより』31号のほか、次の刊行物を発行しました。

『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2008（平成20年度）』（7月発行）

『年報』と『たより』は、センターのウェブサイトからもご覧いただけます。

■北海道文学館と共同で編集しました。

企画展図録『語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界』（5月発行）

図録は、北海道立文学館（011-511-7655）より発行し、同館で販売しています（¥1,000）。

平成21年度前半の動き

■人事短信（4月1日付）

（転出）総務課長 石栗 公文
（転入）総務課長 島田 和子

■行事など

- ・企画展「語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界」（札幌市、5～7月）
- ・道・JST共催「2009サイエンスパーク」（札幌市／参加、7月）
- ・国立公文書館主催「平成21年度公文書館等職員研修会」（東京都／参加：甲地、8～9月）
- ・道民ホールロビー展「アイヌ語地名を歩く—山田秀三文庫の資料から—2009・札幌」（札幌市、9月）

既に新聞報道等でご存知の方も多いと思いますが、当研究センター・第二代所長の谷本一之氏が、去る7月19日にご逝去されました。

谷本氏は、アイヌ音楽をはじめ北方諸民族の音楽研究に従事され、精力的に現地に赴いて貴重な芸能の記録・調査に努めるとともに、民族音楽学者として多くの業績を遺されました。

当研究センターにおいては、平成6年に運営協議会委員長、平成7年11月から平成15年3月までは所長を勤められ、事業の基盤を整え展開を図る時期において、大きな支えとなりました。平成8年度には、当研究センターがハンガリー国立民族学博物館と共催した「バラートシ・アイヌコレクション展」の企画と実現に尽力され、両国での展示と資料調査報告書の刊行という成果を収めることができました。

ここに、永年にわたるご厚誼に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

アイヌ民族文化研究センターだより No.31

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2009年9月30日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル1F

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金/9:00～17:00 (土・日・祝日/休)

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc>

E-mail hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報紙は、環境に配慮した用紙を使用しています(古紙配合率100%、白色度70%)。